

# マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 27 原作シナリオ

山崎浩治

## マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 27 原作シナリオ

---

### # 1 カラオケボックスの一室

杏子とハルオが熱心にタッチパネル端末を見ている。

ハルオ「杏子さん、美空ひばりがあるよ。それともリンゴの唄がいいっすか？」

杏子「ハルちゃん、私をいくつだと思ってんの」

ハルオ「だって杏子さん、昭和の歌、好きじゃないすか」

杏子「昭和過ぎるわ！ 私はピンクレディー世代！（「U F O」の振り付けで歌い出す）」

### # 2 ハルオとのツーショット写真をアップした杏子のSNS

「年下カレシとカラオケ熱唱中！」とある。

### # 3 「居酒屋まわりみち」店内

仏頂面でSNSを見ているオネエ所長(傍らにサオリと菜摘がいる)――をカウンター中から見ているアヤカ。

アヤカのOFF「オネエ所長はまだ離婚届にハンコ、押してないそうです」

サオリ「いまさら嫉妬しないでよ。自分からお母さんを捨てたくせに」

オネエ所長「……」

サオリ「お母さん、ヘルパーの仕事をダシにしてカレシの部屋に通い詰めてるわ」

### # 4 ママチャリを走らせる杏子(別の日の昼)

### # 5 ハルオの団地の台所

料理を作る杏子の手元を覗き込んでいるハルオ。

ハルオ「杏子さんが作ったご飯だとばあちゃん、よく食べるんスよね」

杏子「ハルちゃんの味が濃過ぎるの。具材も食べやすいように、小さく切るといいわ」

ハルオ「了解っス！ 杏子さんがヘルパーに来てくれるようになってほんと良かった。ばあちゃんも喜んでるっス」

ハルオの祖母・静江がひよこひよこ現れる。

静江「最近よくおとうとおかあが会いにくるんや」

杏子「良かったのね、シズちゃん」

ハルオ「ばあちゃんの両親、もう死んでるじゃないか！ 怖いこと言うなよ！」

その時、「ガシャン！」という大きな音。杏子が皿を落としたのだ。

杏子「(固まって床に目を落としている)……」

ハルオ「(心配そうに杏子を覗き込んで)杏子さん、仕事、まだ続けるつもり？」

### # 6 「居酒屋まわりみち」(別の日の夜)

アヤカの目の前で、キヨさんがオネエ所長に「壁ドン」している。

キヨさん「わしの後妻に來い」

アヤカのOFF「か、か、壁ドン……出たあ！」

オネエ所長「キヨさんの気持ちはうれしいけど、あたし、戸籍上は男なのよ」

キヨさん「それがどうした」

#### #7 オネエ所長のマンション・玄関(夜)

オネエ所長がドアを開けると、外に杏子が立っていた。

#### #8 同・リビング

杏子が入ってくると、菜摘が夕食を食べている。

菜摘「こんばんは、おばちゃん」

杏子「いい子はね、おばちゃんを見たら、おねえさん、と呼ぶの。分かった？」

菜摘「うん」

杏子「よろしい。(菜摘の皿をつまみ食いして)マズっ！ あなた、いつもこんなマズいもの、食べてるの？」

菜摘「(ニッコリ笑って)もう慣れた。お腹空いてたら、おいしいよ」

杏子「マズかったらマズイって言いなさい、このおっさんに！」

オネエ所長「(嫌な顔をして)今日は何の用なの？」

杏子、バッグから取り出したのは署名入りの離婚届。

杏子「いいかげんサインして」

オネエ所長「(硬い表情で)断るわ」

杏子「私、ウェディングドレス着たいのよ。あなたとの結婚では着られなかったから」

オネエ所長「……」

#### #9 杏子の一軒家・キッチン(翌日の昼)

杏子が料理を作っている。

杏子のOFF「あなたが、女として生きたい、と言った時は驚きました。腹も立ちました。でもしばらくして気付いたわ。あなたはずっと本心を隠して、私とサオリを大切にしてくれてたことに」

× ×

授業中の高校の教室(回想)。男子高生姿のオネエ所長が窓外を見ている。

杏子のOFF「あなたのことを考えると、いまも切なくなります」

オネエ所長の横顔を隣の席から見ている女子高生時代の杏子。

杏子のOFF「私は初めて会った時から、ずっとあなたに恋をしているのでしょ。オネエじゃなく、男のあなた、にね」

× ×

ダイニングテーブルに置かれた病院の薬袋。

杏子のOFF「職場の健診で異常が見つかり、精密検査を受けたらガンが見つかりました」

× ×

病院の診察室で医師の説明を聞いている杏子(回想)。

杏子のOFF「全身に転移して、もう手の施しようがない状態でした」

× ×

ダイニングテーブルで手紙を書いている杏子の横顔。

杏子のOFF「でも余命は聞いていません。私はいままで通り、私らしく生きたいから」

× ×

便箋の上を走るペン先。

杏子のOFF「あなたが家を出た時、離婚しなかったのは私の意地。そしていま、離婚しようと思うのも私の意地です」

× ×

手紙を書き終え、読み返す杏子。

杏子「(ふっと笑って)……(便箋を破り、ゴミ箱に捨てた)」

## #10 オネエ所長のマンション・玄関

ドアノブにレジ袋が結ばれている。袋の中身は弁当箱。

「差し入れだ。なっちに食べさせろ。杏子」と袋にメモが貼り付けてある。

## #11 「居酒屋まわりみち」(別の日の夜)

店内にアヤカと末吉、オネエ所長とサオリ、菜摘、杏子とハルオがいる。

ハルオがオネエ所長に頭を下げている。

ハルオ「杏子さんと結婚させて下さい」

オネエ所長「あなた、本気なの？」

ハルオ「(頭を下げたまま)本気っス」

オネエ所長「(目の前のコップにビールを注ぎ)……一杯飲みなさい」

ハルオ「い、頂きます(手をぶるぶる振るわせながらビールを飲み干す)」

オネエ所長「あたしは杏子のこと嫌になって家を出たわけじゃない。それだけはよく覚えておいて」

杏子「(カウンターに結婚指輪を静かに置いて)……」

オネエ所長「(それを見て、離婚届にペンを走らせる)」

## #12 片町スクランブル交差点

渡っていく杏子とハルオ。

ハルオ「これで本当に良かったんすか、杏子さん」

杏子「ハルちゃん、ありがと。私のお芝居に付き合ってくれて」

人混みのなかに消えていく杏子とハルオの寂しそうな背中。